



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2017.8

No.401

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



平成29年度(第33回)総会

平成29年6月25日(日)午前9時30分に受付(担当:青木正俊、石塚敬二郎)を開始し、さいたま市浦和区埼玉会館2階ラウンジで、総会を開催しました。(文中敬称略)

●記念講演



浅見徹の司会で定刻に開始。記念講演は、6月13日に本部財団常務理事から理事長に就任した遠藤孝一「日本野鳥の会の活動について」(上写真)。日本での自然保護と本会の歴史、財団と支部等連携団体の関係イメージ、様々な保護活動など、会の活動に関する包括的な話でした。

●表彰式など

海老原美夫代表の開会の挨拶で総会が始まり、平成28年県内鳥見ランキング観察鳥種数の部1位(148種)の千島康幸に対する表彰状が読み上げられ、副賞として今回からクオカード1,000円分を贈ること、本人欠席のため後日届けることが伝えられました。今回探鳥会参加回数への応募はありませんでした。

議長に近藤龍哉、書記に山部直喜、議事録署名人に佐野和宏・菱沼一充を選出して、議事に入りました。

●平成28年度事業報告

海老原が事務局長として、映像をまじえ平成28年度事業について報告しました。

【普及活動関係】

普及部(部長:長野誠治)が担当した探鳥会

は、年間121回(月平均10.1回)、参加者合計4,858人。前年度より増加した。リーダー研修会、年末講演会などを開催。その他普及部以外の会員の普及活動14件など。

【保護活動関係】

「見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク」運営会議、「みぬま秋フェス in さぎ山」実行委員会、さいたま市「見沼・さぎ山交流広場」設立総会、運営会議、武蔵丘陵森林公園地域懇談会などに小林みどりと藤掛保司が出席した。和白干潟のラムサール条約登録を求める署名451名分を、9月16日(金)和白干潟を守る会山本廣子代表に藤掛が手渡した。

【調査研究関係】

研究部(部長:小林みどり)は、カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類調査などを継続し、埼玉県野鳥分布調査2005年~2010年報告を『しらこぼと』増刊号として発刊した。

記録委員会(委員長:榎本秀和)は、7件の事例について検討して結果を『しらこぼと』誌上で発表した。

【広報活動関係】

編集部(部長:山部直喜)は、会誌『しらこぼと』を年12回、合計21,600部発行した。

IT委員会(委員長:浅見徹)は、探鳥会参加者、会員の増加をめざし、公式サイトの実践につとめた。

【総務・事務局関係】

残念ながら会員数は引き続き減少。減少率は2.3%。11月12日(土)~13日(日)千葉市内で開催された日本野鳥の会連携団体全国総会に海老原が出席した。11月19日(土)~20日(日)の2日間、青梅市御岳山駒鳥山荘で開催された奥多摩支部担当関東ブロック協議会に、青木正俊、石塚敬二郎、石光章、榎本秀和、小林みどり、長野誠治の6名が参加した。

【事業活動関係】

事業部(部長:大坂幸男)は、会の財政安定に貢献した。

事業報告は、当会ホームページに全文掲載
していますので、ご覧ください。

●平成 28 年度収支決算

平成 28 年度収支決算は右下表(誌面の都合
で、一部の項目を合算したものを掲載)の通り
です。青木正俊・楠見邦博両監事が監査結果
を報告しました。

●平成 29 年度事業計画・収支予算

平成 29 年度事業計画案は従来の事業を継
続すること、予算案は、探鳥会参加費の金額
変更が一般会計の財政状態に好影響を与えた
ことにより、事業部会計から一般会計への補
填が28年度の30万円から10万円に減額され
ること、一般会計支出案には古くなったコピ
ー機を新しくする仕器備品費が含まれること
などが説明され、ここまでの議事は1号議案
(事業報告)と2号議案(決算)、3号議案(事業
計画案)と4号議案(予算案)がそれぞれ
一括して、拍手で承認されました。

●平成 29 年度役員

前年度役員のうち大坂幸男(上尾市)、柴
野耕一郎(さいたま市)、玉井正晴(蓮田市)、
野口由美子(上尾市)、山口芳邦(新座市)の
5名が、それぞれの事情で退任を申し出ま



した。長年のお力添え、
本当にありがとうございました。そのほかの 40
名を再任、大井智弘(さい
たま市=左写真)を新任
として選出する案が承認
されました。

●代表、副代表など留任

総会を一旦中止して平成 29 年度役員に
よる最初の役員会を同じ場所で開催、代表、
副代表、監事がそれぞれ留任することが承
認されました。

●平成 29 年度役員

【代表】 海老原美夫(さいたま市)

【副代表】 小林みどり(さいたま市) 山部

直喜(三郷市)

【幹事】 相原修一(鴻巣市) 浅見徹(さいた
ま市) 新井巖(深谷市) 石井智(鴻巣市)
石川敏男(春日部市) 石塚敬二郎(さいたま
市) 石光章(所沢市) 伊藤芳晴(川口市)
井上幹男(長瀬町) 入山博(春日部市) 榎本
秀和(鴻巣市) 大井智弘(さいたま市) 小荷
田行男(さいたま市) 近藤龍哉(上尾市) 佐
野和宏(越谷市) 杉本秀樹(習志野市) 須崎
聡(川口市) 鈴木秀治(ふじみ野市) 田邊八
州雄(越谷市) 千島康幸(小川町) 手塚正義
(川口市) 長嶋宏之(蓮田市) 中島康夫(蓮
田市) 長野誠治(さいたま市) 中村豊己(東
松山市) 橋口長和(春日部市) 長谷部謙二
(川越市) 菱沼一充(白岡市) 菱沼洋子(白
岡市) 廣田純平(上尾市) 藤掛保司(川越
市) 茂木幸蔵(行田市) 森本國夫(さいたま
市) 吉原早苗(北本市) 吉原俊雄(北本市)

【監事】 青木正俊(さいたま市) 楠見邦博
(さいたま市)

日本野鳥の会埼玉 平成28年度決算・29年度予算

収入の部

	項 目	28年度決算	29年度予算
一般会計	期首繰越金	311,542	527,627
	会費	2,702,850	2,700,000
	その他	979,901	811,000
	事業部会計から	300,000	100,000
	一般会計合計	4,294,293	4,138,627
事業部会計	期首繰越金	2,413,055	2,236,304
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	事業部売上金	514,942	600,000
	事業部雑収入	1,807	2,000
	事業部会計合計	7,929,804	7,838,304
総合計		12,224,097	11,976,931

支出の部

	項 目	28年度決算	29年度予算
一般会計	会報印刷費	1,202,688	1,250,000
	会報発送料	914,229	900,000
	家賃	984,000	984,000
	その他	665,749	955,000
	期末繰越金	527,627	49,627
	一般会計合計	4,294,293	4,138,627
事業部会計	事業部仕入れ金	391,988	450,000
	雑費	1,512	2,000
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	一般会計へ	300,000	100,000
	期末繰越金	2,236,304	2,286,304
事業部会計合計	7,929,804	7,838,304	
総合計		12,224,097	11,976,931

(円)

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●ズアオアトリ

英名 Common Chaffinch

学名 *Fringilla coelebs*

分類 スズメ目アトリ科アトリ属



未入会の方より、2017年2月12日に富士見市内で撮影した写真(中央が対象の鳥)が寄せられました。当委員会で検討したところ、ズアオアトリの可能性が大きいということになりましたが、写真がこの角度の1枚だけなので、全身の羽毛の状態などは確認できません。そのため、自然迷行によるものか、いわゆる「籠脱け」個体なのか、考える手がかりを得ることができませんでした。そこで、このたびの観察事例は参考記録に留め、本種を県内野鳥リストに入れるべきかどうかの判断については保留します。

『コンサイス鳥名事典』(1988年、三省堂)に拠れば、本種は「ヨーロッパ・アフリカ北部・中央アジア・シベリアに分布」とあり、我が国での記録は、1990年4月の北海道利尻島での1例しかありません。飼い鳥として輸入され、販売されている現状もあります。

●シラガホオジロ

英名 Pine Bunting

学名 *Emberiza leucocephalos*

分類 スズメ目ホオジロ科ホオジロ属



和賀忠夫さん(未入会の方)より、2017年2月25日に羽生市内で撮影した上掲写真が寄せられました。当委員会で写真を検討した結果、シラガホオジロと確認しました。本個体は尾羽の全部が欠損していることから、「籠脱け」の可能性についても慎重に検討しました。本種も飼い鳥として輸入され、販売されている現状があります。

しかし、本個体の場合、初列風切の擦り切れもないなど、尾羽以外には羽毛に傷みのないきれいな夏羽であることがはっきり判ります。また、尾羽の欠損は、自然状態でも何らかの原因により起こり得るものであるため、このたびの観察事例には「籠脱けを疑わせる点は特に見出せない」と判断し、341番目の野鳥として県内野鳥リストに追加することにしました。

日本野鳥の会三重から「大規模太陽光発電(メガソーラー)建設の中止を求める署名のご協力依頼について」という文書が届きました。「四日市ソーラー事業(仮称)(約68ha)、四日市足見川メガソーラー事業(約95ha)の2カ所で、自然豊かな広大な丘陵林が伐採されようとしています。タカ類が長年生息・営巣しており、市内でも貴重な里山です。このような里地里山は、地域の財産として後世に残していく責任、使命があります」として、署名推進団体は、足見川メガソーラー計画から里山を守る会、日本野鳥の会三重、水・空気・大地・緑と市民生活をよくする会の3団体です。詳しくは <http://miebird.org/index.php/ja/> をご覧ください。



野鳥情報

吉見町吉見総合運動公園 ◇2月22日、約30羽のタゲリが三々五々散在し、芝生で採餌。4羽のムナグロが芝生で採餌、越冬したものと思われる。ヒバリが上空で囀っていた。コチョウゲンボウ♂が樹の天辺で周囲を睥睨していた。順光で綺麗だった(下写真)。他にオオタカ、チュウヒ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、キジ♂、シメ、アトリ、カシラダカ、ホオジロ、ダイサギ、イソシギなど(長嶋宏之)。



さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇2月23日夕方5時頃、草木にタヒバリ30羽、ねぐら入り。初めて見た。ハクセキレイも集団で罅入りするから納得(野口 修)。

さいたま市浦和区木崎3丁目 ◇2月23日朝、ケヤキの木にアトリ10数羽。3月6日、上空から「ツリリリリ…」という声が降ってきた。見上げるとヒメアマツバメ約30羽が群舞(鈴木紀雄)。

北本自然観察公園 ◇2月25日午前10時~11時、ルリビタキ♂、ベニマシコ♂♀、カシラダカ4ヶ所で13羽、ジョウビタキ♀、アトリ♂2羽♀1羽、アカゲラ、シロハラ、シメ、セグロセキレイ、カワセミなど(本多己秀・久文子)。

幸手市中川河川敷(5439-0691) ◇2月26日、上宇和田公園から圏央道までの約1kmの間でマガモ♂7羽♀7羽、コガモ♂10羽♀7羽、カルガモ10羽、セグロカモメ1羽、アオサギ1羽、イソシギ2羽、トビ2羽、ノスリ1羽、チョウゲンボウ3羽、ツグミ4羽、タヒバリ3羽、セグロセキレイ4羽、

ハクセキレイ4羽、シメ5羽、ホオジロ4羽、カシラダカ4羽、アトリ1羽、メジロ2羽など(荒川貴之)。

春日部市内牧 ◇3月1日午前中、田んぼでバン4羽、田で採餌したり、ヨシ原で水浴びしたり。ダイサギ、目先がもうブルー。カワセミ、タシギ、キセキレイ、カワラヒワなど(本多己秀・久文子)。

飯能市阿須運動公園(5339-6207) ◇3月5日、すぐそばを流れる入間川の旧河道ではないかと思われる運動公園内の湿地でアオシギが盛んに採餌していた。しばらくすると見えない場所へ移動してしまった。見えるところには時々しか出てこないようだ。他に、カルガモ、マガモ、キンクロハジロ、アオサギ、アリスイ、ハシボソガラス、シロハラ、ウグイス、シジュウカラ、シメ、ムクドリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カワセミ、ヒヨドリ、アオジ、ガビチョウなど(森本國夫)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇2月28日、ルリビタキ若鳥が庭木の間を枝渡り。屋敷林からタカの声が2回。ツグミとシロハラが喧嘩し、シロハラが逃げ出した。3月6日、シロハラ、ジョウビタキ♀、ルリビタキ若鳥♂、エナガとジュウカラとメジロの混群。3月12日、イカル1羽がナラ林で鳴きながら枝移り。今季ここで初めて。ウグイスの囀り練習を聞いた。部分白化のハシボソガラス1羽が普通のハシボソガラス2羽と行動を共にしていた。3月17日、ホオジロ♂1羽と♀2羽が畑で採餌、ノスリが輪を描いていた。コサギが釣り人の側でジッとしていた。釣り人がくれる魚を待っているようだった。3月20日、カケス2羽が屋敷林で枝移り。ツグミ2羽が桜の木の下で採餌。ジョウビタキ♀が植え込みで出たり入ったり(長嶋宏之)。

鴻巣市栄町 ◇3月10日、ウグイスさえずる。今季初認。まあ合格のさえずり(榎本秀和)。

岩槻区馬込トラスト7号地 ◇3月11日午前10時頃、ハイタカ1羽、上空旋回(本多己秀・久文子)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇3月12

日午後1時頃、ヤマガラ、ツグミ、ホオジロ、シメ、オオタカ、ルリビタキ、シロハラ、アカハラ、ジョウビタキなど（本多己秀・久文子）。

渡良瀬遊水地 ◇3月12日、ツクシガモ、ツバメ、カオジロガビチョウなど55種（大畑祐二）。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇3月13日、山田大沼下池にて、オシドリ♂3羽♀2羽、トモエガモ♂1羽（榎本秀和）。

飯能市名栗湖 ◇3月14日、ペニマシコ、ルリビタキ、ヤマガラ、ヒガラなど（長嶋宏之）。

加須市加須はなさき公園 ◇3月16日、アトリ15羽±が地面で採餌。ヒドリガモ♂32羽♀28羽の群れの中にアメリカヒドリの交雑種が2羽とホシハジロ♀1羽。他にジョウビタキ♀1羽、モズ♂1羽、ツグミ5羽、カワラヒワなど（長嶋宏之）

さいたま市中央区八王子5丁目 ◇3月18日午前7時頃、かやのき団地8号棟庭のケヤキでツミ♂1羽♀1羽、暫しの間、朝日を浴びる。近くでヒヨドリ2羽が騒がしくなく。ツミは、数日前から近所で鳴いていた。同日、自宅バルコニーにヒヨドリ1～2羽が足繁く訪れ、ローズマリーやムスカリの花を啄んで行った（大塚純子）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇3月19日、クイナ1羽が全身を見せて30分以上ジッとしていた。カワセミがすぐ近くの枝にとまっていた。アトリ30羽±が地上で採餌、すぐ上の枝に舞い上がっては降りて採餌。オオバン30羽±が陸で採餌。他にヨシガモ、コガモ、カンムリカイツブリ夏羽、バン、シメ、ジョウビタキ♀、セグロカモメなど（長嶋宏之）。

久喜市下栢間 ◇3月20日午前6時35分、赤堀川近くでニューナイスズメ11羽。3月25日午後4時30分、同所でカワラヒワ3羽、近くに建築足場用資材置き場をめぐらしているスズメ300羽（小貫正徳）。

さいたま市彩湖 ◇3月21日、荒川彩湖公園で湖面が大幅減水で最近稀に見る低水位。カモやサギが見当たらない。鉄塔下のこもりした芝生にオオバン60数羽がほとんど

動かず群がっていた。少々異様な感じがした。その横30m程先の芝生には、居残り組かツグミ14羽が三々五々餌を啄んでいた（陶山和良）。

埼玉県幸手市中川河川敷(5439-0691) ◇3月22日、カルガモ29羽、コガモ♂4羽♀4羽、カワウ3羽、ダイサギ1羽、アオサギ2羽、イソシギ1羽、イカルチドリ1羽、セグロセキレイ6羽、ハクセキレイ3羽、ノスリ1羽、チョウゲンボウ1羽、モズ2羽、ツグミ1羽、シジュウカラ8羽、ホオジロ5羽、オオジュリン4羽、シメ1羽など（荒川貴之）。

さいたま市大宮公園(5339-7500) ◇3月25日、今季みんなを楽しませてくれているミコアイサのカップルがまだ池にいた。他にカルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、オオバン、カワセミ、コゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミなど（森本國夫）。

北本自然観察公園 ◇3月26日、小雨の降る中、久し振りにクイナ、亜種オオアカハラなどが見られた。アカゲラ、カワセミ等37種（大畑祐二）。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇3月27日、芝生に降りて採餌していたアトリ約30羽が人の接近で舞い上がる。ヒョウタン池ではカルガモ2羽、マガモ♂3羽♀1羽。カワセミ♂1羽♀1羽は、繁殖行動が始まっているようだったが、♀への求愛給餌は失敗（鈴木紀雄）。

戸田市道満グリーンパーク ◇3月29日、グリーンパークの池でハシビロガモ♂2羽♀2羽、コガモ♂1羽♀1羽、カイツブリ、オオバン、ジョウビタキ♂、アオジ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツグミ、ムクドリ（陶山和良）。

鴻巣市大間一丁目 ◇3月29日午後12時30分ごろ、ツバメが1羽、鳴きながら上空を飛び回る。今季初認（榎本秀和）。

表紙の写真

ペリカン目サギ科アオサギ属ダイサギ

暑い時は、ゆっくりゆっくり行動しましうね。 暑さ苦手のBW(さいたま市)



行事案内



カイツブリ幼鳥(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員100円、一般200円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。実際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月6日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス8:36発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、大畑、岡安、近藤、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：夏真っ盛りの公園で鳥を探します。木陰道を渡る風が心地よいです。この時季見られる鳥は少ないのですが、大丈夫！トンボを中心にたくさんの昆虫が待っています。皆さんを飽きさせません。

交通：JR 武蔵野線 武蔵浦和 12:01→南浦和 12:04→京葉線直通 南船橋 12:54 着。

担当：杉本、伊藤、手塚、長谷部、菱沼(一)、菱沼(洋)、渡邊

見どころ：シギ・チドリ類の秋の渡りを観察します。珍しい種類も出やすい時季です。集合時刻を間違えないでください。暑さ対策をお願いします。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：8月13日(日)

集合：午前8時20分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷8:00発、または寄居7:39発に乗車。

担当：榎本、新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：暑い暑い毎日ですが、午前中に軽く散歩はいかがですか。鳥見、虫見、花見？で盛り上がりましょう。マムシも出たりするので、足もとはしっかりと。飲み物は必ず携帯してください。

ご注意：集合時刻、9月までは夏時間です。朝から猛暑の場合は、探鳥会を中止します。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：8月12日(土) 午後開催

集合：午後1時、JR 武蔵野線 南船橋駅前。



5月5日、谷津干潟探鳥会(編集部)

千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：8月19日(土)

集合：午前9時10分、ふなばし三番瀬海浜公園バス停留所付近。

ご注意：JR 船橋駅での受付はしません。

交通：JR武蔵野線南浦和7:18→西船橋で総武線8:08に乗換え、船橋8:11着。京成バス8:30発船橋海浜公園行きに乗車し、終点下車。京成バス乗り場は京成船橋駅付近にあります。リーダーがご案内します。

担当：菱沼(一)、佐久間、佐野、杉本、菱沼(洋)、渡邊

見どころ：9時03分が干潮です。次第に潮が上がって来るので鳥たちを間近に観察できるかもしれません。越夏中のミヤコドリ、アジサシとコアジサシの違いも忘れず観察しましょう。暑さがきびしいので対策を忘れずに！

『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月19日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：8月20日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線 北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：小林(み)、青木、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、須崎、新部、畠山、増田

見どころ：避暑にも行かず里で頑張っているホオジロ、ツバメ、ヒバリ、カワラヒワそれにスズメ。身近な小鳥をノンビリ観察しましょう。帽子と水筒、忘れずに！

リーダー研修会(要予約)

期日：8月27日(日) 午前9時30分～午後4時30分(受付開始：午前9時)。

会場：北本市文化センター3階・第3会議室
交通：JR高崎線 北本駅西口から徒歩約10分。

申し込み：初めてリーダー研修会に参加される方は、往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、推薦者の氏名(記載必須)を明記して、長野誠治(

)へ。8月18日必着。役員・リーダーの方も電話またはメールで、必ず事前に参加申し込みをお願いします。

初めての方の参加資格：探鳥会にリーダーとして協力できる埼玉会員で、役員かリーダー1名以上から推薦された方。

その他：① 筆記用具を持参してください。
② 昼食(弁当)は普及部で用意します。



昨年9月のリーダー研修会(編集部)

害鳥化するタンチョウ

小荷田行男(さいたま市)

2016年10月中旬、別件の調査でタンチョウの生息地(繁殖・越冬)である北海道川上郡鶴居村各地を巡回した。畑はデントコーン(飼料用作物)の収穫真最中。タンチョウが収穫前後の畑や牛の畜舎など農業施設にカラスの様に出入りする光景を多数目撃した。北海道では近年タンチョウ生息数が1,000羽を越え、その大多数が当地で越冬する。タンチョウは当地では害鳥と認識されている。

2016/2017年冬、鳥インフルエンザ対策から、地元の人々によって連綿と続けられて来た冬期給餌も中止されている。

鶴居村では、タンチョウ保護が岐路に立たされている。タンチョウは戦前から開拓者を主体とする官民一体の手厚い保護が行なわれて来た歴史がある。しかし生息数増加に伴う負の側面も検討しなければならない岐路に差し掛かっている。それは本来稲作の害鳥であるトキ、コウノトリも予想される。生息数増加を考慮に入れた保護施策が望まれる。

2017年9月～12月の行事予定

探鳥計画を立てるのにご利用ください。変更されることもありますので、確定情報はその月号の『しらこぼと』の行事案内でご確認ください。

月	日	曜日	探鳥地など
9	10	日	熊谷市 大麻生 [定例]
	17	日	さいたま市 三室地区 [定例]
	17	日	坂戸市 高麗川
	18	祝月	寄居町 中間平 (タカの渡り調査)
	18	祝月	さいたま市 大久保農耕地 (シギ・チドリ類調査)
	23	祝土	松伏町 松伏記念公園
	23-24	土-日	長野県 白樺峠・豊平 (要予約)
	24	日	狭山市 入間川 [定例]
	24	日	飯能市 天覧山 (タカの渡り調査)
10	1	日	北本市 石戸宿 [定例]
	1	日	さいたま市 民家園周辺 [定例]
	8	日	熊谷市 大麻生 [定例]
	14	土	加須市 渡良瀬遊水地
	14	土	日野市 多摩動物公園 (ヤング・要予約)
	15	日	さいたま市 三室地区 [定例]
	21-22	土-日	長野県 戸隠高原 (要予約)
	22	日	行田市 さきたま古墳公園
	29	日	松伏町 まつぶし緑の丘公園
	11	3	祝金
4		土	上尾市 丸山公園
5		日	春日部市 内牧公園
9		木	羽生市 羽生水郷公園 (平日)
12		日	熊谷市 大麻生 [定例]
18		土	さいたま市 見沼自然公園
19		日	さいたま市 三室地区 [定例]
19		日	嵐山町 菅谷館都幾川
23		祝木	本庄市 坂東大橋
23		祝木	志木市 柳瀬川
24		金	戸田市 彩湖 (平日)
25-26		土-日	宮城県 蕪栗沼・蒲生干潟 (要予約)
26		日	狭山市 入間川 [定例]
26		日	蓮田市 黒浜沼
12	2	土	所沢市 狭山湖
	2	土	加須市 渡良瀬遊水地
	3	日	北本市 石戸宿 [定例]
	3	日	さいたま市 民家園周辺 [定例]
	7	木	加須市 渡良瀬遊水地 (平日)
	9	土	さいたま市 岩槻文化公園
	10	日	熊谷市 大麻生 [定例]

12	14	木	加須市 加須はなさき公園
	16	土	滑川町 武蔵丘陵森林公園
	17	日	さいたま市 三室地区 [定例]
	23	祝土	年末講演会
1	24	日	幸手市 宇和田公園
	4	木	さいたま市 さぎ山記念公園

注) さいたま市彩湖探鳥会(ヤング)及びビギナー向け併設探鳥会は日程調整中です。

9月～12月「たくさん見える！」予報

2012～2016年の9～12月の探鳥会で見られた野鳥は、県内で135種、県外で103種でした。県内で多種を見たい人のために、5年間の月ごとの出現鳥種数が多い順に探鳥会を並べてみました。

	9月	10月	11月	12月
1	入間川	渡良瀬	(渡良瀬)	渡良瀬
2	高麗川	民家園	羽生水郷	民家園
3	大麻生	さきたま古墳	黒浜沼	(彩湖)
4	松伏記念	石戸宿	(緑の丘)	狭山湖
5	三室地区	三室地区	菅谷館	森林公園
6	—	緑の丘	坂東大橋	三室地区
7	—	大麻生	利根大堰	岩槻文化
8	—	(西川越)	大麻生	宇和田
9	—	—	見沼自然	石戸宿
10	—	—	入間川	大麻生
11	—	—	柳瀬川	はなさき
12	—	—	丸山公園	—
13	—	—	三室地区	—
14	—	—	内牧公園	—
15	—	—	彩湖	—
	45～34種	72～37種	65～32種	67～45種

() 付き：今回は設定されていない探鳥会

ちなみに2012～2016年の9～12月を通算した出現鳥種数は、渡良瀬 93、民家園 73、大麻生 73、三室地区 66、彩湖 60、入間川 59、黒浜沼 53、石戸宿 60、羽生水郷公園 58、まつぶし緑の丘公園 56、森林公園 54、狭山湖 54、岩槻文化公園 52、菅谷館都幾川 51、坂東大橋 51、宇和田公園 51、利根大堰 49、見沼自然公園 47、柳瀬川 46、丸山公園 46、加須はなさき公園 45、さきたま古墳公園 45、高麗川 40、内牧公園 39、松伏記念公園 39、西川越 37、となります。月別の順位が低くても、実施回数が多いところは、通算すると出現鳥種数が多くなる傾向があります。通い詰めれば結構いろいろな鳥が見られるということですね。



行事報告

1月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11名

浅見徹、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫、三ッ矢正安

1月22日(日) 長瀬町 長瀬

参加: 48名 天気: 晴

キジ オシドリ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ キジバト カワウ イソシギ トビ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (39種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 岩畳・河原でカルガモ、マガモ、セグロセキレイなど。水管橋からはオシドリ、キャンプ場の池でキンクロハジロ、ホシハジロを見る。蓬萊島駐車場でアトリ、イカルの群れを十分観察して終了。カモ類7種、なかでもオシドリが見られて大満足。(井上幹男)

1月22日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 27名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン タシギ ノスリ アリスイ コゲラ アオゲラ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (40種) 出発時、目の前の木立にエナガ、メジロ、シジュウカラ、コゲラの混群が現れてしばらく足止め。ヨシ原でホオジロ類やアトリ類もほぼ見られ、さらにホテルの里では久しぶりのア

リスイがヨシ原の中のヤナギで見られた。暖かく、数多くの鳥が現れて幸せな探鳥会。(玉井正晴)

1月22日(日) 狭山市 入間川

参加: 22名 天気: 快晴

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン ヒメアマツバメ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ トビ ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ イソヒヨドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (44種) (番外: ドバト) 目標、セキレイ類5種。一番むずかしいと思ったタヒバリがあっさり出た。あとは稲荷山公園でピンズイ探しの予定だったが、ルリビタキ、シロハラのサービスがよかったのでそのまま終了。目標は達成できなかったが出現種数は44種、川原ではオスのイソヒヨドリまで見られた。(長谷部謙二)

1月24日(火) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 32名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン ミサゴ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ トラツグミ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ キセキレイ ピンズイ アトリ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (37種) (番外: ガビチョウ) 各沼はほとんど全面結水していた。アトリの群れ、カラの混群、シロハラ、ツグミ、シメなどが次々に姿を見せた。上空をミサゴが通過。鮮やかなルリビタキが次々に姿を見せた。そしてトラツグミの姿も。山田大沼にカモの姿は少なく、カワウは信じられないほどの少なさだった。(中村豊己)

1月26日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 44名 天気: 晴

ヨシガモ マガモ カルガモ コガモ ミコアイサ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ

ダイサギ コサギ クイナ バン オオバン チュウヒ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ モズ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (41種) (番外: ドバト) 穏やかな観察日和。湿地ではベニマシコ、オオジュリン等、電柱のノスリをじっくり観察し、上空の猛禽はノスリ?チュウヒ?ハイイロチュウヒ?と皆で識別を楽しむ。ヒバリは上空高く囀り、池ではミコアイサ[♂]、遠くの空をミヤマガラスの群れが飛ぶ。最後はシメで締めくくる。(相原修一)

2月2日(木) 戸田市 彩湖
参加: 32名 天気: 晴

マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン ユリカモメ セグロカモメ オオタカ コゲラ モズ ハシボソガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ カシラダカ アオジ (34種) (番外: ドバト) 強い風が吹き荒れた。とりあえず出発するが、あまりの風に、心が折れそう、というよりも折れた。管理橋を渡る前に一次解散して、ちょっときついな、と思う方には先に帰っていただいた。残りの面々は結局、いつものコースを最後まで歩いた。前日の下見で見られたコハクチョウやヨシガモの姿もなく、小鳥も少なかったが、ベニマシコは律義にも[♂]♀出てくれた。(小林みどり)

2月4日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川
参加: 27名 天気: 快晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ イカルチドリ クサシギ ノスリ カワセミ コゲラ アカゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ アトリ カワラヒワ シメ イ

カル ホオジロ カシラダカ アオジ (38種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 空堀沿いの草地でシメ、カシラダカをじっくり観察。桜の木にアトリ。ヤマガラ、シロハラが地面で採餌。シジュウカラ、エナガ、コガラの混群が現れた。川岸に出るとカワセミがいて、下流からノスリが飛んできた。中州にタヒバリ、イカルチドリ、上流の水際に暫く見かけなかったクサシギがいた。対岸をハヤブサが飛び、アカゲラが梢にとまった。二瀬橋を渡り土手を下流に歩くと、対岸の木にイカルの群れ。とまっているノスリを観察して終了。(千島康幸)

2月4日(土) 狭山市 智光山公園
参加: 54名 天気: 快晴

オカヨシガモ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ ミコアイサ キジバト カワウ ダイサギ コサギ オオバン オオタカ コゲラ アオゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ミソサザイ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ アトリ シメ (34種) (番外: ドバト) 目玉はミコアイサ。メスが1羽、ヒドリガモ等の群れにまぎれていたが、さすがに目を引いた。それにしても、カモ類をはじめ今年には冬鳥が異常に少ない。過去毎回複数個体を確認していたカワセミまでが出現ゼロで、淋しい新記録。[翡翠の消えた水面に ミコアイサ 静かに浮いて「主役はわたし」] (石光 章)

2月5日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
参加: 28名 天気: 晴後曇

オシドリ マガモ カルガモ ホシハジロ カイツブリ キジバト コゲラ アカゲラ カケス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ シロハラ ツグミ ジョウビタキ ハクセキレイ ビンズイ アトリ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (26種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 午後以降雨の予報で短いコースを設定。西田沼では遠くながらオシドリ[♂]を確認。ルリビタキやベニマシコの出現を期待するも空振りに終わる。カケスやシロハラの鳴き声と飛び交う姿は多いものの、猛禽や小鳥の混群には出会えず、出現種数も限られたものになった。(鈴木秀治)



● **マダニ・スズメバチにご注意を!!**

マダニ媒介による重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルス感染例などが、6月22日付け産経ニュース、6月26日付け毎日新聞地方版などで報道されています。

マダニはSFTSだけではなく、その他の感染症も媒介します。帽子・長袖・長ズボン。防虫スプレー使用。草原に直接座らない。草むらに入らない。衣類などを草の上などに直接置かない。帰宅後入浴して全身点検。万一マダニがついていたら、早めに皮膚科を受診してください。

スズメバチも危険な季節に入ります。香水や甘い匂い、黒い服装を避けてください。甘い飲み物の場合は蓋をあけたまま放置しない。飲み残り・飲み終わりのボトル・缶はザックの中に入れる。スズメバチが寄って来た時は、手で払ったりせず、姿勢を低くして静かに自分が来た方向に戻る。刺されてしまったら、毒を絞り出して水で洗い流し、急いで病院へ。毒を口で吸い出そうとすることは厳禁です。

(この項、2013年8月号本欄記事を一部修正して再掲しました。)

● **会員の普及活動**

彩の国シニア自然大学校2017年度野鳥観察講座第1回が5月17日(水)さいたま緑の森博物館(入間市)で開催され、受講者10名に対し、石光章、小林みどり、近藤龍哉、山部直喜が指導しました。

新ハイキング主催「鳥を観る・知る」第22回が5月20日(土)水元公園(江東区)で開催され、約20名の参加者に対し、小林みど

り、藤田敏恵、星進が指導しました。

6月10日(土)、さいたま市立浦和博物館主催の親子探鳥会が緑区三室地区で開催され、楠見邦博、畠山孝、小菅靖、石塚敬二郎が、親子35名の参加者を指導。「たんぼのなかを歩いて森に入ると鳥がやって来たよ!」のテーマで、雑木林でコゲラ、NPO法人の人たちが田植えするたんぼで、ツバメやコチドリを楽しみました。

● **会員数は**

7月3日現在 1,683人。

活動と予定

● **6月の活動**

- 6月10日(土) 7月号校正(海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之)。
- 6月18日(日) 役員会(司会:浅見徹、各部の報告・9-12月行事予定・その他)。
- 6月19日(月) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』7月号を郵便局から発送(海老原美夫、山部直喜)。

● **8月の予定**

- 8月5日(土) 編集部会。普及部会。
- 8月12日(土) 9月号校正(午後4時から)。
- 8月19日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 8月20日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

共謀罪。双眼鏡とメモ帳と地図を持ってたらテロの下見なんだとさ。いつも、やってるんですけど、そういうもの持って。テロじゃなくて探鳥会の下見。弁当とビール持ってたらOKらしいから、いつも、持ち歩くか。でもこの季節、ビールはやっぱり冷たいのがいいな。う〜む。常温でも美味しい日本酒にしようかな。(泥鰌)

しらこぼと 2017年8月号(第401号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamazekuzoku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社